

京っこクラブ 3月宿泊活動

～みんながいれば、なんでもできる！！～
3月14日(土) ～ 3月15日(日)

IN 花背山の家

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発	雪遊び	キャンドルファイア
2日目	野外炊飯、プログラムづくり	施設を出発・解散	

一日目： 暖かい日が続いていましたが、キャンプ二日前頃から寒波が訪れ、当日は鞍馬を過ぎたあたりから残雪がちらほら見え始めました。施設に到着すると、雪がたくさん残っており、みんなのテンションは一気に上がりました。入所式を済ませ、まずはグループ分けです。今年もプログラムごとにくじびきを引き、グループを決めていきます。普段の活動ではなかなか同じグループになれない兄弟、友達となれるチャンスがあるということで、くじびきタイムは緊張感と共にワクワクしている様子が感じられました。またこのくじびきでは同時に班長も決まり、くじを回収したり、整列の際に先頭に立ったりと学年問わず同じ役割を受け持ちます。昼食を済ませ、早速雪遊びへ出発です。最初は自由時間を設け、やってみたいことを楽しみました。ソリ遊び、雪だるまづくり、かまくらづくり、雪合戦と思い思いに遊んでいました。時間が経つにつれ、自然とかまくらづくりにみんなが集まり、完成した『お一人様用かまくら』と一緒に全員で写真を撮りました。そこからは、グループ対抗雪合戦をやろうとみんなで決め、時間いっぱい楽しみました。部屋に戻り休憩後、食堂で夕食を食べました。ここで途中参加メンバーも合流し全員が揃いました。お腹いっぱいになった後は、一日目最後の全員プログラムであるキャンドルファイアです。今回は有志メンバーの出し物もあり、いつも以上に大盛り上がりでした。入浴を済ませ、男女それぞれの棟で振り返りをし、布団に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。



二日目： 朝眠そうな目をこすりながら身支度を済ませると、荷物整理、布団の片付け、清掃とやる事が次から次へと舞い込んできます。しかし、そこはさすが京っこメンバー。自分達で役割分担し、テキパキと進めていました。朝食はこのキャンプでは恒例となったパックドックです。具材をみんなで準備し、好きな物をパンにはさみ焼いていきます。焦げることもほとんどなく上手に焼いていました。そして朝食後から昼食までの時間は、自分達でプログラムをつくることに挑戦しました。約束は“みんなで決める”です。その為に、みんなが意見を言おう、みんなが理解と納得をしてから話を進めよう確認し話し合いが始まりました。まず男女グループでやりたいことをだし、次に低学年高学年に分かれやりたいことを絞っていきます。高学年グループはリーダーからの声掛けがなくても、メンバー内で進行、書記を割り振り、意見がある時は手を挙げ気づいた人があてるといった話し合いの雰囲気づくりが自然と出来ていました。低学年グループは、最初誰か任せな空気が流れなかなか話し合いが進みませんでした。しかし「このままじゃ決まらない」と言うメンバーの一言をきっかけに徐々に変化が見られ、分からない事を質問したり、まわりに意見を尋ねたり、できることを考え必死に取り組む姿が見られました。プログラムは「ドッチボール」に決まり、時間やルールを全員で話し合いました。約1時間半話し合い、遊ぶ時間は30分。それだけ考えて決めた遊びだからこそ、全員が本当に楽しそうで満足そうでした。準備や片付けも普段からは考えられないスピードで行い、リーダー達も驚いていました。昼食後は振り返りアンケートを書き、2014年度皆勤賞の表彰式をして施設をあとにしました。



<キャンプ総括>

今年は参加者16名。男の子は高学年の割合が高く、女の子は六年生一人以外、全員一年生。京っこ歴も半年～年と改めて京っこメンバーの層の厚さを感じました。しかし活動中は、学年や京っこ歴の差をいい意味で感じさせない場面が多々あり、特に話し合いでは学年問わず意見をはっきり言うメンバーが多いです。今回のプログラムをつくる話し合いでも、意見が飛び交い白熱していました。そんな中でも、ただ自分の意見を言うのではなく「それやったら一年生には難しくない？」という意見に対して「でもそれって、聞いてみないとわからなくない？」や「みんなが意見言わないから決まらない！はやく言って！」という意見に対して「そんな言い方じゃみんな言にくいと思う。」など、こちらもお～！と驚かされるような意見がここでは紹介しきれないほどたくさんありました。そんな話し合いの雰囲気をも自分たちでつくり、進め決めていくことのできるメンバーは本当に頼もしく、これからの京っこクラブをもっと盛り上げてくれると確信しました。来年度も、お互いが高め合える京っこクラブをみんなで目指していきたいです。(生本 ひろみ)